

国語 第4学年 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。伝える方法についての考えと事例を対応させ、段落相互の関係を読む。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう」 教材名「思いやりのデザイン / アップとルーズで伝える / 【じょうほう】考えと例」

2 単元の目標

考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア)

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。〔C(1)ア〕

伝える方法についての考えと事例を対応させ、段落相互の関係を読む学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。〔知識及び技能〕(2)ア)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。〔C(1)ア〕

〔主体的に学習に取り組む態度〕①伝える方法についての考えと事例を対応させ、段落相互の関係を学ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

伝える方法についての考えと事例を対応させ、段落相互の関係を学ぶ。この教材では、考え・事例・対比の関係図を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

写真と説明の語を対応させ、例の段落とまとめの段落を色で区別する。教科書の写真は配布物に複製しない。想定する難しさは、映像の知識の紹介に終始し、文章の構成を見ない。評価では、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えているかを、考え・事例・対比の関係図と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～4時：○アップとルーズで分かること、分からないことを本文で整理し、対比の段落を対応させる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第5～7時（本時）：○アップとルーズで分かること、分からないことを本文で整理し、対比の段落を対

応させる。書き手の考えと事例を線で結び、別の伝え方について自分の考えを述べる。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第8時：○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（C(1)ア）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「その事例は、どの考えを確認するために置かれていますか」

【めあて】伝える方法についての考えと事例を対応させ、段落相互の関係を読む。

予想される児童の反応：・近くを映すと分かることがあるが、全部は分からない。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「その事例は、どの考えを確認するために置かれていますか」

アップとルーズで分かること、分からないことを本文で整理し、対比の段落を対応させる。書き手の考えと事例を線で結び、別の伝え方について自分の考えを述べる。

選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。

予想される児童の反応：・近くを映すと分かることがあるが、全部は分からない。

・対比すると考えが分かりやすい。

指導上の留意点：写真と説明の語を対応させ、例の段落とまとめの段落を色で区別する。教科書の写真は配布物に複製しない。

想定する難しさ：映像の知識の紹介に終始し、文章の構成を見ない。

評価では、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えているかを、考え・事例・対比の関係図と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

考え・事例・対比の関係図を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。

予想される児童の反応：・対比すると考えが分かりやすい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その事例は、どの考えを確認するために置かれていますか」。中央は、考え・事例・対比の関係図に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

